

ボケてんじゃねえよ、生きてんだよ。

GOODEARTH presents 兎座番外公演in札幌

# 脳天儿ターナー

作・演出 藤原珠恵

2025年10月3日(金)~5日(日) @生活支援型文化施設コンカリーニョ



GOODEARTH presents 兎座番外公演in札幌

# 脳天ルナマ-

脚本・演出／藤原珠恵(兎座)

## タイムテーブル

2025年10月

3(金) 19時

4(土) 13時 / 17時

5(日) 12時 / 16時

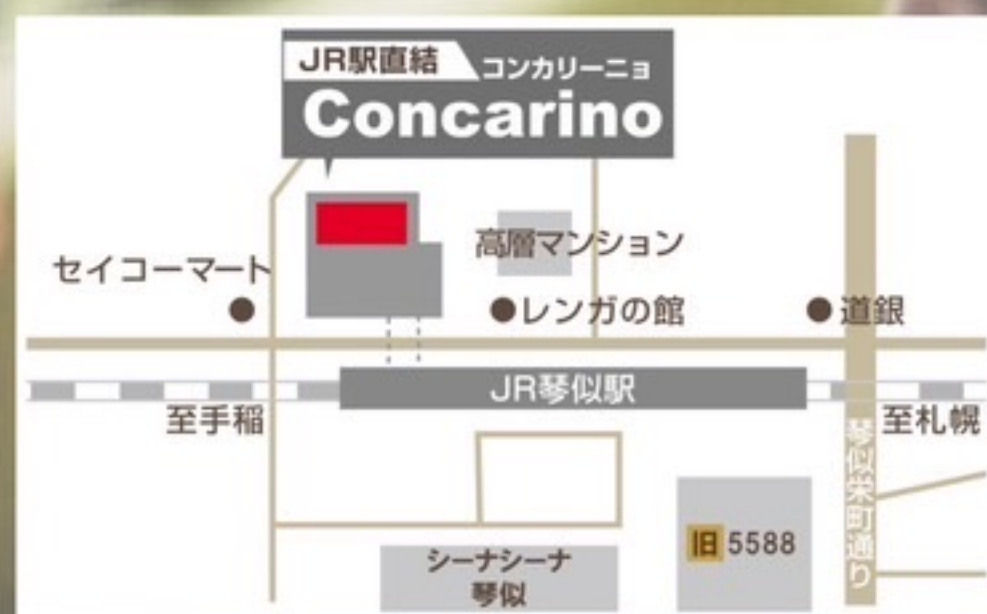
※受付開始45分前/開場30分前

## 劇場

生活支援型文化施設コンカリーニョ

〒063-0841

北海道札幌市西区八軒1条西1丁目2 10 ザ・タワー・プレイス 1F



## チケット

前売り/当日 ¥7000

※税込。全席指定席。

予約サイトにてクラウドファンディングも実施中!

チケット予約QR



## 札幌公演CAST



内浦純一



剣持直明  
(劇団たるま座)



岡村多加江  
(椿組)



牧野達哉



ジョニー-高山



関木ときたか



すだあきら  
(劇団たるま座)



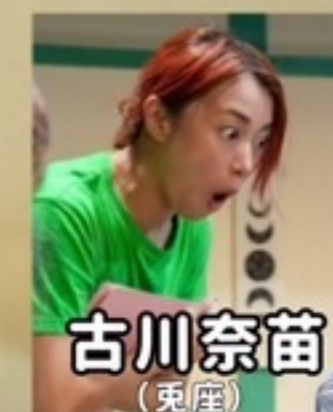
にゃん原律多



小林愛里  
(兎座)



藤原珠恵  
(兎座)



古川奈苗  
(兎座)

## 【STAFF】

舞台監督 / 下沢要

音響 / 大江芳樹 (株) ほりぞんとあーと

照明 / 松本紀子

美術 / 牧野達哉、カンフミト

取材協力 / 中迎聡子 (株式会社いる葉)・いのうえまゆみ

振付 / 増田ゆーこ

宣伝美術 / 古川奈苗(兎座)

制作 / 國府島梨菜

企画制作 / 兎座・GOODEARTH

【協力】 アンテナヌ/1カラット/株式会社enchanted/リベルタ

問合せ: info@godearthstore.jp

# ボケてんじやねえよ、 生きてんだよ

舞台は介護施設"あお葉"

男はとある理由で海を眺めていた。

ひょんなことから男は声をかけられこの介護施設で働くことに。

そこで見た光景とは。

食べたいものを食べて、眠たくなったら眠る  
お風呂に入り、晩酌したくなったらする  
そこには普通に暮らしている人がいた  
世の中の常識って何なのかを問う舞台  
何かにとらわれ、この"普通"を失いかけている今だからこそ  
このあお葉の光景を見て何かを感じてもらえたらと思います。

舞台のモデルは  
鹿児島県に実在する介護施設"いる葉"

介護の現場でじいちゃんばあちゃんの『こうしたい!』が叶わない現実がある中  
『しかたない』と諦めるのではなくスタッフ一同『仕方なくない!』を合言葉に  
一人ひとりの生き方・活き方・逝き方に寄り添い続ける介護士と看護師たちがモデルとなった。  
"その人らしさの尊厳を支え続ける"  
どこまでも人間臭く、ユーモアと笑いに溢れ答えのない命の在り方に向き合い続ける施設。  
モデルとなった"いる葉"が見事に演劇となって  
介護現場を生きている多くの人が日々と重ねてみるができる作品となっております。

## 全国に届け!脳天ハイマーの公演のあゆみ

初演  
東京

小劇場B1  
2023.10/5~9



実際のいる葉がユーモアたっぷりで沢山の方の人生が詰まってる施設なので  
モデルで作品を作りたいと言いだしたものの、めちゃくちゃプレッシャーでした。  
でも、ちゃんと作品をお届けできたなら何か起こるかもしれない...とも感じてた初演。  
(兎座/作演出 藤原珠恵)

インディペンデントシアター2nd  
2024.3/1~3 大阪



GOODEATHさんや沢山の方が、日本中にこの舞台を届けよう!とすぐ動いてくださり、  
大阪での再演が決まりました。兎座にとって想像もしていなかったまさかの展開。  
毎公演満席カーテンコールの光景に脳天ハイマーの作品力を改めて感じた大阪公演。  
(兎座 古川奈苗)

福岡

ぽんプラザホール  
2024.10/5~6



大阪公演の千秋楽で急遽決まった福岡公演!  
私は地元なので身近な人にもいる葉を知ってもらえた有意義な公演でした!  
初日にいただいた温かな拍手、今でも忘れられません。  
改めてこの脳天ハイマーをより多くの方に観ていただきたいと感じた公演でした。

(兎座 小林愛里)

東京  
凱旋

赤坂RED/THEATER  
2025.3/12~16



NEXT 北海道/札幌公演  
2025年10/3~5

【脳天ハイマー】とは...

いる葉利用者のお婆ちゃんが突如言い放った造語。

おそらく自分はボケているからという意味で使ったと思われるその『脳天ハイマー』という言葉が、  
何だかポップで、ボケることも明るく前向きに感じたことから公演タイトルに使わせていただきました。